

伊賀市歴史的風致維持向上計画(平成28年5月29日認定)
中間評価(平成28年度～令和2年度)
【暫定版】(原案)

- 方針別シート(様式1)
- 方針別シート(様式2)
 - I 文化財の保存・活用
 - II 歴史的な町並みの保存・活用
 - III 歴史的遺産周辺の環境整備
 - IV 市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成
 - V 歴史的風致を活用した観光・交流促進・情報発信
- 波及効果別シート(様式3)
 - i 観光客の満足度の高さ
- 代表的な事
 - A まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門活用事業)
 - B 古民家等再生活活用事業
- 歴史的風致別シート(様式5)
 - 1 上野天神祭にみる歴史的風致(上野城下町)
 - 2 芭蕉顕彰と俳句文化にみる歴史的風致(上野城下町)
 - 3 伊賀組紐にみる歴史的風致(上野城下町)
 - 4 城下町の和菓子店にみる歴史的風致(上野城下町)
 - 5 神戸神社と伊勢神宮とのつながりにみる歴史的風致(神戸地区)
 - 6 敢国神社の獅子舞にみる歴史的風致(府中地区佐那具宿周辺)
 - 7 観音提寺の修正会にみる歴史的風致(島ヶ原宿周辺)
 - 8 鷗宮神社の秋の例大祭にみる歴史的風致(島ヶ原宿周辺)
 - 9 春日神社長屋祭にみる歴史的風致(いがまち地区)
 - 10 植木神社の祇園祭にみる歴史的風致(大山田平田宿)
 - 11 伊賀焼にみる歴史的風致(阿山丸柱周辺)
 - 12 大村神社例大祭にみる歴史的風致(青山阿保宿周辺)
 - 13 かんこ踊りにみる歴史的風致(農村部)
- 庁内体制シート(様式6)
- 住民評価・協議会意見シート(様式7)
- 全体の課題・対応シート(様式8)

中間評価(統括シート)			(様式1)
市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R02
①歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	上野天神祭にみる歴史的風致(上野城下町)	I・II・IV・V	
2	芭蕉顕彰と俳句文化にみる歴史的風致(上野城下町)	I・III・IV・V	
3	伊賀組紐にみる歴史的風致(上野城下町)	II・IV・V	
4	城下町の和菓子店にみる歴史的風致(上野城下町)	II・IV・V	
5	神戸神社と伊勢神宮とのつながりにみる歴史的風致(神戸地区)	III・IV	
6	敢国神社の獅子舞にみる歴史的風致(府中地区佐那具宿周辺)	I・II・IV・V	
7	観音提寺の修正会にみる歴史的風致(島ヶ原宿周辺)	I・II・IV・V	
8	鷺宮神社の秋の例大祭にみる歴史的風致(島ヶ原宿周辺)	I・II・IV・V	
9	春日神社長屋祭にみる歴史的風致(いがまち地区)	I・II・IV	
10	植木神社の祇園祭にみる歴史的風致(大山田平田宿)	I・II・IV	
11	伊賀焼にみる歴史的風致(阿山丸柱周辺)	III・V	
12	大村神社例大祭にみる歴史的風致(青山阿保宿周辺)	I・II・IV・V	
13	かんこ踊りにみる歴史的風致(農村部)	I・III・IV	
②歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	文化財の保存		
II	歴史的な町並みの保存・活用		
III	歴史的遺産周辺の環境整備		
IV	市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成		
V	歴史的風致を活用した観光・交流促進・情報発信		
③歴史まちづくりの波及効果			
i	観光客の満足度の高さ		
④代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門活用事業)	歴史的維持向上施設	
B	古民家等再生活用事業	歴史的維持向上施設	

中間評価(方針別シート)			(様式2)																																				
市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R02																																				
方針	I 文化財の保存・活用	今後の対応	継続展開																																				
①課題と方針の概要 ・課題: 指定文化財について保存修理や整備が行われていないため、文化財が本来有する価値を顕在化できていない。また、文化財の担い手不足による継承の危機にある。文化財の継承のためには、魅力の発信や継承者の確保が必要であるが、普及・啓発等に十分取り組めていない。 ・方針: 文化財の保存修理や整備を実施する際には、専門家らによる指導委員会を設置し文化財が本来有する価値を損なうことが無いようにする。また、文化財を継承するためには、その価値や魅力を広く周知する必要がある、文化財保護にかかる普及・啓発活動を進める。																																							
②事業・取り組みの進捗 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>史跡上野城跡保存整備事業</td> <td>国指定の史跡上野城跡城代屋敷跡の発掘調査、石垣(1箇所)の修復・復元や城代屋敷の平面表示・説明板設置等の整備が完了した。</td> <td>あり</td> <td>H14～H28</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>史跡旧崇広堂保存整備事業</td> <td>国指定の史跡旧崇広堂の経年劣化した土塀3箇所の漆喰塗直し等の保存整備が完了した。</td> <td>あり</td> <td>H18～H28</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>春日神社拝殿解体修理事業</td> <td>傷みが著しい県指定文化財の拝殿1棟保存修理工事を実施している。</td> <td>あり</td> <td>H28～</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>上野天神祭のダンジリ行事 民俗文化財伝承・活用等事業(保存事業)</td> <td>だんじりの幕や軀体、用具類の修理、復元・新調を進めている。現在、上野福居町の幕修理に着手している。</td> <td>あり</td> <td>H15～</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬家長屋門活用事業)</td> <td>市指定文化財成瀬平馬家長屋門1棟の修理が完了した。現在、門北側において忍者体験施設に向けた発掘調査を実施。</td> <td>あり</td> <td>H24～R2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>芭蕉翁生家施設改修整備事業</td> <td>市指定の史跡芭蕉翁生家の主屋等の改修整備のため、調査・設計を行い、工事に着手した。</td> <td>あり</td> <td>H30～</td> </tr> </tbody> </table>						項目	推移	計画への位置	年度	1	史跡上野城跡保存整備事業	国指定の史跡上野城跡城代屋敷跡の発掘調査、石垣(1箇所)の修復・復元や城代屋敷の平面表示・説明板設置等の整備が完了した。	あり	H14～H28	2	史跡旧崇広堂保存整備事業	国指定の史跡旧崇広堂の経年劣化した土塀3箇所の漆喰塗直し等の保存整備が完了した。	あり	H18～H28	3	春日神社拝殿解体修理事業	傷みが著しい県指定文化財の拝殿1棟保存修理工事を実施している。	あり	H28～	4	上野天神祭のダンジリ行事 民俗文化財伝承・活用等事業(保存事業)	だんじりの幕や軀体、用具類の修理、復元・新調を進めている。現在、上野福居町の幕修理に着手している。	あり	H15～	5	まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬家長屋門活用事業)	市指定文化財成瀬平馬家長屋門1棟の修理が完了した。現在、門北側において忍者体験施設に向けた発掘調査を実施。	あり	H24～R2	6	芭蕉翁生家施設改修整備事業	市指定の史跡芭蕉翁生家の主屋等の改修整備のため、調査・設計を行い、工事に着手した。	あり	H30～
	項目	推移	計画への位置	年度																																			
1	史跡上野城跡保存整備事業	国指定の史跡上野城跡城代屋敷跡の発掘調査、石垣(1箇所)の修復・復元や城代屋敷の平面表示・説明板設置等の整備が完了した。	あり	H14～H28																																			
2	史跡旧崇広堂保存整備事業	国指定の史跡旧崇広堂の経年劣化した土塀3箇所の漆喰塗直し等の保存整備が完了した。	あり	H18～H28																																			
3	春日神社拝殿解体修理事業	傷みが著しい県指定文化財の拝殿1棟保存修理工事を実施している。	あり	H28～																																			
4	上野天神祭のダンジリ行事 民俗文化財伝承・活用等事業(保存事業)	だんじりの幕や軀体、用具類の修理、復元・新調を進めている。現在、上野福居町の幕修理に着手している。	あり	H15～																																			
5	まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬家長屋門活用事業)	市指定文化財成瀬平馬家長屋門1棟の修理が完了した。現在、門北側において忍者体験施設に向けた発掘調査を実施。	あり	H24～R2																																			
6	芭蕉翁生家施設改修整備事業	市指定の史跡芭蕉翁生家の主屋等の改修整備のため、調査・設計を行い、工事に着手した。	あり	H30～																																			
③課題解決・方針達成の経緯と成果 市史跡や市指定文化財の保存・修理事業については、文化財の価値を損なわないよう、専門家等で構成される指導委員会を設置して指導・助言を得て実施している。 上野城下町の中心となる史跡上野城跡については、15年間にわたり発掘調査や資料調査を行い、石垣の一部復元や地下遺構を平面表示する整備事業を実施することにより、史跡本来の価値を顕在化し、来場者への魅力発信につながった。 春日神社拝殿は、地域と行政が文化財の価値を共有し、後世に残すべき文化財として保存修理事業を実施している。事業を契機として公開講座を開催し、地域の歴史や文化財について学習する普及・啓発活動を継続している。 上野天神祭のダンジリ行事については幕やダンジリの軀体、道具等の保存修理を専門家の指導・助言を受けながら継続しており、文化財の保存と継承が図られている。 成瀬平馬家長屋門は半解体と痕跡調査をもとに江戸期の姿として修理することにより、城内の景観の向上につながった。  史跡上野城跡城代屋敷跡の平面遺構表示  春日神社拝殿解体修理(組み立て作業)  機車の幕の監修会議																																							
④自己評価 指定文化財の修理事業は、専門家の指導・助言を受けながら文化財の価値の再発見と文化財保存の意識の向上につながっている。 また、保存修理だけでなく、ダンジリのお囃子体験や春日神社の公開講座など、文化財の普及・啓発事業も取り組むことができた。 文化財としての修理が実施され、建造物等の本来持つ文化財の価値が明らかとなり、質が向上したことにより、城内・城下町の魅力につながっている。																																							
⑤今後の対応 伊賀市は国・県・市指定の文化財、登録登録文化財合せて500件近くを有しており、保存修理・保存整備事業を計画的に進めていく必要がある。個々の文化財の保存修理については、緊急性や地域住民の意見も聴取する。また、計画的な保存・活用を進めるため、その方針をまとめた『伊賀市文化財保存活用地域計画』の策定に取り組む。継続してる事業については予定期間内に完了できるよう地域と協議を行いながら事業の円滑な推進を行っていく。																																							

中間評価(方針別シート)			(様式2)	
市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R02	
方針	Ⅱ 歴史的な町並みの保存・活用	今後の対応	継続展開	
①課題と方針の概要 ・課題: 重点区域のいずれにおいても、歴史的建造物を継承する後継者が不足している。かつて上野城下町や宿場町で見られた歴史的建造物の町並みの連続性が失われている。 ・方針: 上野城下町や街道の宿場町においては、個々の文化財建造物を「点」として保全するのみでなく、その他の歴史的建造物も良好な形で維持することにより、連続性のある「線」「面」として町並みの維持を図る。				
②事業・取り組みの進捗				
	項目	推移	計画への位置	年度
1	ヘリテージマネージャー活用支援事業	登録文化財候補の選定11件、調査7の実施、7件登録。	あり	H29～
2	松生家活用事業	地元食材を使用したお店として食事を楽しんだり、土産品を買い求めるなどして賑わっていたが、令和元年度からカフェ、土産販売、観光案内機能を備えた複合施設としてオープン。	あり	H21～R7
3	修景助成事業	平成28・29年度は助成件数8件、平成30年度以降は相談件数7件。	あり	H28～
4	古民家等再生活活用事業	上野城下町において登録文化財1件、町屋1件をリノベーションした伊賀上野城下町ホテルが令和2年11月開業した。今年度中にもう1件が開業予定。	あり	R01～
③課題解決・方針達成の経緯と成果 伊賀市においては重点区域を上野城下町区域、島ヶ原区域、阿保区域の3つを設定している。 ヘリテージマネージャー活用支援事業により、城下町及び宿場町において、歴史的な建造物等の価値の再発見の結果、国の登録文化財に登録され、町並みの保存や景観を維持することができた。 大和街道に面する町屋の建造物である松生家住宅は、町屋の姿を活かし、地域でとれた食材や土産物を扱いながら環境施設の1つとなっている。街道の町並みを形成する建造物の1つとして景観の維持に寄与している。 上野城下町区域では、失われつつある歴史的町並みの保全のため、所有者が景観に合致した建築の改修等を行う場合、助成を実施することにより、城下町の町並みの景観に寄与している。 空き家については市域全域でその把握に取り組んでおり、移住者への情報提供とともにさまざまな支援を実施している。上野城下町区域においては、民間と市が協働して国の登録有形文化財や歴史的な建造物を再生し、伊賀上野城下町ホテルとして事業を進めている。  景観形成対象の土塀の修復  景観を配慮した建築物  登録文化財を宿泊施設に活用 ④自己評価 町屋の継続した利活用や歴史的な建造物の調査を進め、指定・登録する、また、空き家となっていた歴史的な建造物を再生させ、分散型の宿泊施設として展開していく古民家等再生活活用事業により、歴史的な建造物等を残しながら町並みや景観の保存につながっている。一方で、指定・登録されていない文化財や歴史的に価値がある建物であっても解体される事例がある。 ⑤今後の対応 各事業を地域や所有者と協議をしながら着実に進めていく。行政と地域がまちづくりについて話し合うとともに、歴史的景観を生かしたまちづくりについて啓発に取り組む。				

中間評価(方針別シート)			(様式2)	
市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R01	
方針	Ⅲ 歴史的遺産周辺の環境整備	今後の対応	継続展開	
①課題と方針の概要 ・課題: 重点区域においては、歴史的建造物や景観が維持されている部分と、空き家の増加によりその環境が損なわれる恐れがある箇所がある。また、歴史的町並みに合致しない無機質な建造物やモノトーンな配色の街路により、歴史的景観の向上が阻害されている。 ・方針: 歴史的町並みを維持するため、その環境が損なわれる恐れのある空き家を有効活用するよう努めるとともに、歴史的町並みに合致するような街路の改修などに努める。				
②事業・取り組みの進捗				
	項目	推移	計画への位置	年度
1	伊賀流空き家バンク事業	利用者・物件登録、物件成約が増加し、空き家の有効活用が進んでいる。	あり	H27～
2	ポケットパーク整備事業	平成30年度に設計、令和元年度に工事着手、令和2年3月に完成した。名称「さまざま広場」	あり	H28～R1、
3	道路美装化事業(上野城下町区域)	平成28年度に市道愛宕町恵美須町線延260m、平成29年度に市道農人町八幡町線延250m、平成30年度に市道丸之内久米線延100m、令和元年度に市道農人町八幡町線(北側部分)延220mを施工	あり	H20～R2
③課題解決・方針達成の経緯と成果 空き家となった古民家の利用について、きめ細やかな説明や内覧などにより、全体の利用者数、物件登録数、物件成約数が増加傾向にある。 上野城下町区域では、松尾芭蕉にちなんだ「さまざま広場」が整備された。桜の植樹や句碑が設置され、市民・観光客が憩える場となっている。 平成20年度から上野天神祭ダンジリ行事の巡行経路を中心に城下町において脱色アスファルト舗装と側溝の改修が実施している。舗装が土系の色彩であり、道路と歴史的な建造物が良好な町並みを作っており、景観の維持と向上に寄与している。				
		 「さまざま広場」		
④自己評価 重点区域の上野城下町においては道路美装化が進み、城下町の町並みや文化財や歴史的建造物を結ぶ道路が整備されることにより、景観に一体感が形成されている。また、		 上野城下町の道路美装化		
⑤今後の対応 上野城下町区域の脱色アスファルト舗装や側溝を改修する事業は、継続し、着実に進めていく。また、阿保地区や島ヶ原地区においても城下町とつながる街道の宿場町の町並みや景観について、引き続き、地域と協議を行っていく。				

中間評価(方針別シート)		(様式2)	
市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R01
方針	IV市民意識の向上と歴史文化を継承する担い手の育成	今後の対応	継続展開
①課題と方針の概要 ・課題: 人口減少や高齢化に伴い伝統行事の継承が困難となっている。伝統行事を担う演じ手の高齢化が顕著になっているだけでなく、それらの道具の修理や復元にかかる経費の負担も問題となっている。 ・方針: 伝統行事に関心を持ってもらうため、市の広報誌やホームページなどのさまざまな媒体を活用して周知する。また、小中学校などを対象に祭りや芸能などの伝統行事に関する学習機会を提供するほか、気軽に伝統行事を体験できる機会の充実に努め、担い手の確保や後継者育成へ向けた支援を行う。			
②事業・取り組みの進捗			
	項目	推移	計画への位置 年度
1	上野天神祭のダンジリ行事 民俗文化財伝承・活用等事業(活用事業)	ダンジリ町と協力しながらお囃子体験会や上野城下町の散策を毎年実施している	あり H15～
2	初瀬街道まつりイベント支援事業	平成18年度から毎年3月、初瀬街道阿保宿で地元自治協が中心となって実施している。	あり H18～
③課題解決・方針達成の経緯と成果 上野城下町で毎年10月に開催される上野天神祭のダンジリ行事については、上野文化美術保存会が中心となりダンジリや幕などの保存修理事業を進めるとともに、後継者育成の一環として小・中学生を対象としたお囃子体験イベントなどの活用事業を実施している。今後のダンジリ祭の担い手となることを期待したい。 阿保地区では、大村神社の秋祭の獅子神楽、初瀬街道まつりでの獅子舞が披露されている、初瀬街道まつりについては、地域とともに行事を行いながら、街道の町並みを活かしたイベントを継続している。  親子で歩こう！着物を体験しよう！ お囃子体験の様子  初瀬街道阿保宿初瀬街道まつり			
④自己評価 上野天神祭のダンジリ行事の活用事業は、地域や保存会との地道な協議を実施しながら、文化財の保存と活用にかかる普及啓発につながっている。また、世代間の取り組みによって、担い手育成の一端を担っている。			
⑤今後の対応 上野城下町区域で行われる上野天神祭のダンジリ行事について、さらに普及啓発の活動を継続して進める。街道の宿場町で行われるイベントは、町並みや景観を感じられる貴重な機会である。地域と協働しながら継続したイベントの実施ができるよう取り組む。			

市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R01
方針	V 歴史的風致を活用した観光・交流促進・情報発信	今後の対応	継続展開

①課題と方針の概要

・課題: 上野城下町をはじめ、伊賀の歴史的魅力を伝える文化財等の案内看板が十分ではないため、来訪者に対してまちの魅力を十分に伝えることができていない。また、まちの魅力を伝える機会をさらに充実する必要がある。

・方針: 上野城下町及び宿場町の歴史的経緯、指定文化財や日本遺産の構成文化財を紹介するために案内看板を整備することにより、来訪者が伊賀の歴史や文化、魅力について理解することができるように努める。

②事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置	年度
1	文化財説明看板設置事業	指定文化財の説明看板をこれまでに5基設置。日本遺産の構成文化財周辺に案内・誘導、説明看板を設置した。	あり	H16～
2	「伊賀上野NINJYAフェスタ」、「ライトアップイベント お城のまわり」、「伊賀上野灯りの城下町」などイベント開催	「伊賀上野NINJYAフェスタ」、「ライトアップイベントお城のまわり」を毎年夏に、「伊賀上野灯りの城下町」を毎年秋に市民と市が協働して開催している。	なし	H28～
3	島ヶ原竹灯りの宴と秋祭	鷲宮神社の秋祭と伊賀の里しまがはら竹灯りの宴	なし	H15～

③課題解決・方針達成の経緯と成果

指定文化財の説明看板を設置することにより、文化財の価値の普及啓発することができた。

平成29年2月22日、伊賀市は「忍者市」を宣言し、4月には隣接する甲賀市とともに「忍びの里 伊賀甲賀一リアル忍者を求めて」が日本遺産として認定を受けた。その実施主体である「忍びの里伊賀甲賀忍者協議会」により、上野城下町ほかに点在する構成文化財の案内看板及び誘導サインの整備を実施したことにより、市民の日本遺産への普及啓発が図られた。

地域と「うえのまちづくり協議会」や「伊賀市文化都市協会」といった民間団体、市が連携して上野城下町区域において、忍者や城と城下町の魅力を発信する事業として毎年開催されており、文化財や歴史的な建造物をライトアップすることにより、城下町の新たな魅力を発信することができている。

島ヶ原地区においても地域と市が連携しながら、イベントを開催し、秋の風物詩となっている。



日本遺産の構成文化財の誘導・案内看板設置

④自己評価

指定文化財の説明看板は1基ずつ設置できている。

日本遺産「忍びの里 伊賀甲賀一リアル忍者を求めて」にかかる事業による構成文化財の誘導や案内看板設置は、忍者市宣言をした伊賀市の魅力の向上につながっている。

城と城下町を舞台としたイベントが毎年、継続して実施されており、定期的に関心者が活動し集うよい機会となっており、町並みや景観、歴史的な建造物等の魅力の発信につながっている。



伊賀上野灯りの城下町(菅原神社)

⑤今後の対応

地域と協議を行いながら各事業を推進していく。さらに地域や民間団体、市の協働を進め、イベントを実施していく。

市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R01
効果	観光客の満足度の高さ		

①効果の概要 伊賀流忍者発祥の地である伊賀市は、国内外ともに知名度が高い。また、「伊賀上野城」「俳聖芭蕉の生誕地」、そして「伊賀焼」「伊賀牛」「伊賀米」等の観光資源に恵まれた観光地である。年間約150万人以上の観光客の来訪があり、観光市場規模も約77億円と伊賀市の重要な産業と位置付けられる。上野城と城下町を中心としながら街道によって結ばれた宿場町とその周囲の里山景観、祭礼などの人々の活動を含めた歴史的な風致が良好に残されていることが、観光客の満足度の高さにつながっている。

②関連する取り組み・計画

	項目	推移	計画への位置	年度
1	景観計画	重点風景地区内における建築等への助成(平成21年度～)	あり	H21～
2	伊賀市中心市街地活性化基本計画(第1期)	街なみ環境整備事業(道路美装化事業等)(平成20年度～)テナントミックス事業(平成21年度～)・まち巡り拠点施設整備事業(平成24年度～)	あり	H20～
3	伊賀市観光振興ビジョン	忍びの里伊賀甲賀忍者協議会の運営・事業(平成29年度～)	あり	H24～R3

③課題解決・方針達成の経緯と成果

伊賀市の歴史的・文化的な特徴として上野城と城下町の市街地が持つ中心性、街道により結ばれた宿場町と里山が広がる農村に見られる地域性、そして古代から近現代にいたる歴史・文化の重層性が挙げられる。

そのうち、市内の13の歴史的風致を位置づけ、「上野城下町区域」「大和街道と島ヶ原宿」「初瀬街道と阿保宿」の3カ所を重点区域として事業を推進している。上野城下町区域においては、国史跡上野城跡や旧崇広堂の整備や修理、武家屋敷の整備や活用、上野天神祭の楼車巡行ルートの道路美装化などを推進している。

また、(公財)伊賀文化産業協会や(一社)伊賀上野観光協会、うえのまちづくり協議会などが中心となって行政と協働し、春には「伊賀上野城下町のおひなさん」、初夏には「伊賀上野NINJAフェスタ」、夏には「ライトアップイベント お城のまわり」や「市民夏のにぎわいフェスタ」、秋には「伊賀上野灯りの城下町」等、季節に応じた各種イベントを実施している。

宿場町においては、大和街道島ヶ原宿と初瀬街道阿保宿が重点区域となっている。島ヶ原区域では 鷲宮神社の獅子神楽、観音寺の修正会、阿保区域では、大村神社の獅子舞、街道を舞台とした初瀬街道まつりが地域の人々の努力により開催されている。

④自己評価

指定・登録の文化財の保存や活用が行われており、道路美装化事業が進展していることにより、城下町の町並みに一体感が感じられるようになっている。また、街道と宿場町の景観、農村部の田園風景は、所有者や地域の努力によってその景観が保たれている。一方、こうした町並みや景観の維持や今後のあり方についても地域とともに理解を深めていく必要がある。また、島ヶ原区域や阿保区域においては、具体的な事業は未着手であるが、歴史的な資産の掘り起こしを引き続き行っていくとともに、課題を共有する必要がある。

⑤今後の対応

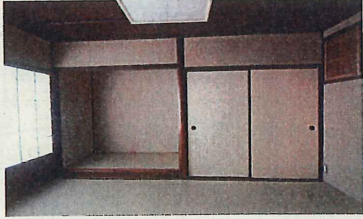
各事業をさらに推進し、地域と協議を行いながら町並みや景観の維持に努める。島ヶ原区域や阿保区域においては、再度、課題を共有しながら具体的な事業を進めることができるよう取り組む。

満足度評価 評価項目	日帰り		宿泊	
	満足回答	満足比率	満足回答	満足比率
景観・雰囲気	670	76.7	695	81.0
食事・	494	56.5	602	70.2
お土産・買物	425	48.6	556	64.8
地域内移動	538	61.6	570	66.4
地域内の情報発信	515	58.9	580	67.6
総合	649	74.3	718	83.7
回答者数	874		858	

アンケートの意見(満足できる要素)

景観・雰囲気
①落ち着いた町並み、歴史を感じさせる
②町に統一感がある
③ゆっくり歩きたい町並み
④自然が豊か
⑤懐かしい町並みと町中がとてもきれい
⑥江戸時代の雰囲気が残っていて、のんびり探索できる
⑦伊賀上野城からの風景
⑧散歩していてとても気持ちが良い

「伊賀市観光マーケティング分析」より
(2019年4月1日～2020年3月31日実施アンケート)
(一社)伊賀上野観光協会 DMO マーケティングチーム

中間評価(代表的な事業の質のシート)			(様式4)
市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R02
取り組み	Aまち巡り拠点施設整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
①取り組み概要 成瀬平馬家長屋門は江戸時代の上級武士の暮らしと格式を伝える貴重な建物であり、平成29年3月に市指定文化財となった建造物である。市街地に位置し、まち巡り拠点として整備し文化財を活用することを企図し、創建当時の姿に復原することを目的として修理工事を実施した。文化財の保存修理工事として可能な限り当初の部材を利用し、腐食が著しい箇所は修繕して補強を行いながら修理を行った。 平成26年度に設計業務を行ったが文化財に指定を受けたため平成29年度に見直しを行い、平成30年3月から修理工事に着手し、令和2年6月に完了した。			
修理前  修理後  			
②自己評価 保存修理事業を進めるにあたり、文化財的価値を損なわないよう保存修理検討委員会を組織し、改修方法等について指導・助言を受けた。本事業の完了により、城下町らしい景観を大きく維持・向上することができ、街なみの魅力が増した。また、工事完成後に開催した内覧会では、市民が地域の文化財とまちの魅力を再確認するよい機会となった。完成後の長屋門は、成瀬平馬家屋敷跡で計画されている忍者体験施設と一体的に、観光案内・情報発信等の機能を併せ持ったまち巡りの拠点施設として活用する予定であり、まちなかの回遊性向上が期待される。			
外部有識者名		福田良彦（伊賀市文化財保護審議会委員）	
外部評価実施日		令和2年12月21日	
③有識者コメント ・成瀬平馬家長屋門の整備については、学術的な検討を積み重ね、将来的な活用を見据えた市指定文化財に相応しい整備を実現している。 ・一体的に活用する成瀬平馬屋敷跡についても、発掘調査を行い、近隣の住民に価値を周知する等、地域と一体となった整備が進められており、活発な文化財の活用につながる。 ・今後の活用にあたっては、伊賀城下町に残る貴重な上級武士の館跡であり、忍者関連施設を計画する場合は、人の流れを城下町に誘引するだけでなく、良好な町割りが残る近世伊賀城下町の姿を来訪者に伝えられるよう、齟齬のない施設となることを期待したい。			
④今後の対応			

中間評価(代表的な事業の質のシート)		(様式4)	
市町村名	伊賀市	評価対象年度	H28～R02
取り組み	B古民家等再生活活用事業	種別	歴史的風致維持向上施設
①取り組み概要 上野城下町を含む中心市街地の空き家は増加傾向にあり、可住地面積に占める空き家密度は、中心市街地では1km²あたり284棟あり、それ以外のエリアでは、1km²あたり7.9棟と26倍の差がある。空き家対策が始まった4年前と比較しても、伊賀上野城下町エリアは、1km²あたり64棟増え1.3倍密度が増加している。一方で、それ以外のエリアでは1km²あたり0.5棟減り、密度が緩和されている。 こうした課題に対応するため、官民連携した空き家対策に取り組み、月平均4世帯が移住転住され中心市街地を除く地域の空き家は減少している。一方、中心市街地は下水道が未整備で合併処理浄化槽埋設地や駐車スペースが無いといった要因から移住が進まず、空洞化に拍車がかかっている。その結果、空き家となった町屋や蔵などの上野城下町の町並みを構成する歴史的建築物の老朽化が進み、解体されていくなか、上野城下町の景観と町並みが失われつつあり、地域全体の賑わいを失っている。 そうした喫緊の課題に対応するため、空き家となった歴史的資源を活用した観光まちづくりを進め、空き家となった町屋や歴史的建築物などを分散型ホテルの客室の一室として建築当時の趣きまで再生して活用を図り、上野城下町全体の回遊性を高め、まちの賑わい創出と歴史的建築物の保存と有効活用を進める。		 ▲旧楽楽館(フロント施設) ▼楽楽館(蔵を客室に) 	
②自己評価 古民家等再生活活用事業の第1期開発も佳境に入り、令和元年度より整備を進めてきた登録文化財1棟、町屋2棟の歴史的建築物(登録文化財:市整備1棟、町屋:民間整備2棟)のうち、登録文化財1棟と町屋1棟の計2棟は建築当時の趣きを残し宿泊施設へとリノベーションし、ホテル運営会社に引渡しが行われ、令和2年10月23日にオープニングレセプションが開催され、同年11月1日に第1期開業を果たすことができた。残り町屋1棟は令和3年初旬に完成を予定し、順次運営を開始する。 現在、第2期開発に向けて開発候補となる歴史的建築物の選定作業を行っており、スピード感を持って城下町の再生に取り組む必要がある。			
外部有識者名			
外部評価実施日			
③有識者コメント			
④今後の対応			